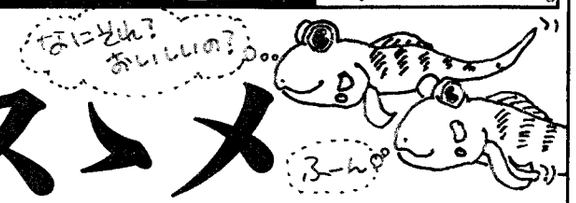
ガタガタ通信

MIZUBE NI ASOBU KAI

No.72
2019・春の号
発行
NPO法人
水辺に遊ぶ会

大分県中津市中央町2-8-35
info@mizubeniasobukai.org

サイヤンス 実学ノススメ



▼平成が終わり令和ってえのが万葉の方角から鳴り物いりでやってきました。どさくさにまぎれて一万円札の顔が我らが福沢諭吉さんから渋沢栄一さんに変わることも発表されました。中津人としては少々さみしい感じもしますが、同じ九州人でノーベル賞候補者、慶應医学部創始者の北里柴三郎が新五千円札ということで無理矢理納得することとします。

福沢札が終わるということで、久々に『学問のすゝめ』やらを引っ張り出したら「サイヤンス」という言葉に目がとまりました。福沢は時に「実学」という漢字に「サイヤンス」とふりがなをふったりしております。どうも彼のいう「サイヤンス」は、単純に自然科学の「サイエンス」を示す言葉ではないようで…。

▼ワタクシなりに現代風に、しかし限りなく個人的に解釈を加えると、**「サイヤンス」とは「生きる力を身につける技」**だと言いたい。

「生きる力」とは、世界や社会を正しく理解し、生活していける力としましょう。「技」はその方法とでも説明しておきます。

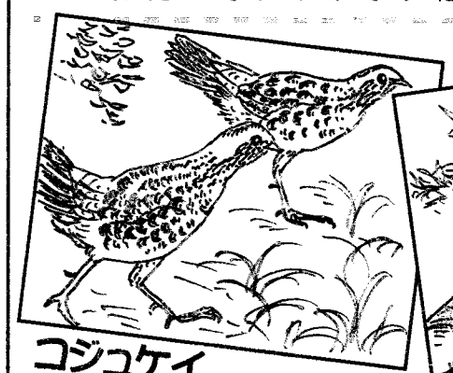
世界や社会を正しく理解するためには、しっかり五感を使って体験し、対話し、考えることが大切だとワタクシは考えます。そして、誰が見ても本当といえることを基本として考えを積み上げなければなりません。また、よくわかっていないことを事実といいはったり、ウソをつく人を見抜く力も大事です。そういった能力を身につける作業が学問であり、「サイヤンス」なのだと思います。

▼「サイヤンス」をそういうふうに考えると、本家？の「サイエンス(science)」は「サイヤンス」のいちばん下の土台を固めるものではないでしょうか。自然の中に身を置いて、タテ・ヨコ・ナナメ・ウラ・オモテから五感で読み取った経験が「生きる力」の根っことなります。

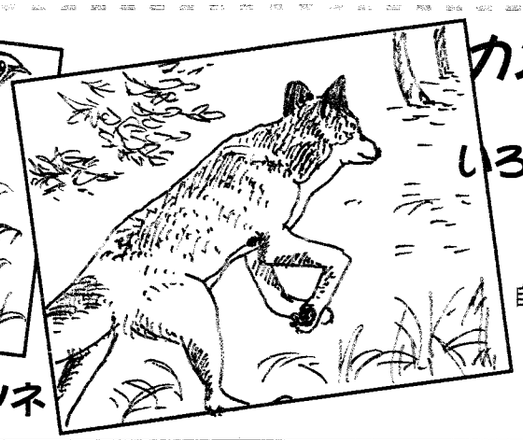
▼昭和から平成にかけて子どもたちの自然体験は質、量ともに減ってしまったといえます。自然体験は「サイヤンス」そのものです。福沢少年も北里少年もふるさとの自然にどっぷりつかって、いろんな経験をし、考えて育ちました。幸いなことに、私たちの目の前には福沢少年がかつて体験した自然が残されています。それは、いつでも手を伸ばせば触れることができるのです。

令和の子どもたちには、伝え残されたふるさと中津の大自然の中で、先人に習い、大いに「サイヤンス」してもらいたいと切に願うところです。(Y)

カメラは見た!!
大新田海岸にはいろんな生きものがいるのだ!!



コジュケイ



キツネ

去年の夏、大新田海岸に自動で撮影できるカメラをセットしました。いろんな生きものがいることがわかったよ。

次のページにつづく

■活動報告(2019.1.1～2019.4.30)

1.10 中央環境審議会水環境部会出席
1.11 山国川鳥類調査
1.11-12 ガンカモ調査
1.15 中津市ＮＰＯ協働研修会講師
1.21 日本文理大森里海連環学講師
1.22 中津市終末処理場周辺水質等委員会
　東九州短大幼児教育科講師
1.24 ひがたかふぇ
1.29 大分の重要な自然共生地域検討委員会
　大分県森林づくり会議
2.2-3 シギチドリ類調査
2. 4 野依新池調査
　山国川かわまち作り検討会議
2. 5 野依新池調査
2.11 ＮＰＯ組織作りについて研修
2.13 深水公民館社会教育講座講師
2.17 かざり海苔巻き教室主催
2.20 大幡ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ女性学級講師
　大新田松林伐採木処分作業
2.22 ノースＦＭゲスト出演
2.24 三百間海岸ビーチクリーン主催
　山国町地域婦人会連合総会にて講演
3. 5 五十石川等流域会議
3. 9 ＴＯＴＯリモデルフェア出展
　藤前干潟スタッフ訪問案内
3.15 山国川カニ調査
　中津市環境審議会
3.15-16 シギチドリ調査
3.17 ベタ料理教室主宰
3.18 中津市六次産業研修会
3.19 山国川植物調査
3.20 中津ロータリークラブにて卓話
　奈多海岸松林再生団体視察案内
　水産大学須田研究室と現地踏査
3.22 中津市とトンボ保全について打合せ
3.25 河川協力団体委託事業完了審査
3.26 大分県森林審議会
3.27 大分県委託森林保全事業完了審査
3.29 トンボ学会保護部長現地調査案内
4. 1 津民小学校放課後教室活動参加
4. 7 ＮＰＯ理事会
4. 8 中津市とトンボ保全について打合せ
4.11 県立工科短大新入生講座講師
　全校生徒ﾋﾞｰﾁｸﾘｰﾝ・松林再生指導
4.12 おおいたうつくし作戦委託事業審査会
4.20-21 シギチドリ類調査・ＲＤＢ調査
4.22 ノースＦＭゲスト出演
4.23 今津小3年ベッコウトンボ観察会
4.28 トンボ学会調査サポート

★日程は変更になることもあります。詳細はチラシやホームページでご確認ください。

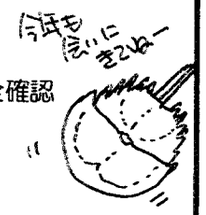
水辺に遊ぶ会今後の行事予定

大新田ビーチクリーン＆松林再生●5月12日(日)9:00～
春の干潟観察会●5月18日(土)13:30～ チラシ見てね!!
山国川お魚観察会●7月27日(土)午後 ※雨天翌週に延期
アカテガニ産卵観察会●7月30日(火)夜 ※雨天8月に延期
夏休み子どもアカデミア●8月17日(土)終日 詳細次回!!

水辺の活動手伝い隊！メンバー募集

春の干潟観察会（5月18日）
内容：参加者と一緒に干潟に入って生きもの探し＆安全確認
　　行事の様子を写真撮影

山国川お魚観察会（7月27日）
内容：参加者と一緒に川に入って魚とり＆安全確認
　　行事の様子を写真撮影



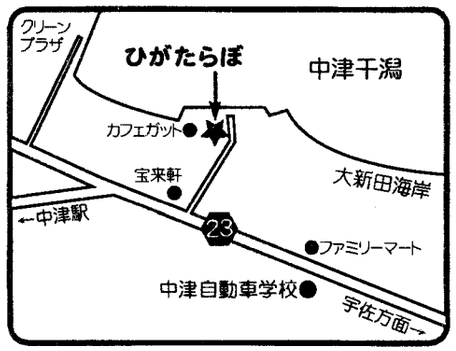
夏休み子どもアカデミア（8月17日）
内容：企画を一緒に考える・準備と片付け
　　展示ブースで参加者と一緒に遊んだり説明をしたり

その他
内容：学校の干潟観察の時の生きもの探し＆安全確認
　　ガタガタ通信の発送作業

ひがたかふぇ
5月23日(木) 18:30～20:00
参加費300円(軽食付) ひがたらぼ

●5月のかふぇはオータセンセが「オオシンデンカワザンショウ」について何やら発表する予定だそうです。あとは楽しくおしゃべりします。お気軽にどうぞ。

ひがたらぼに遊びに来てね



開館時間
10時～16時
土日祝日休館

水辺に遊ぶ会

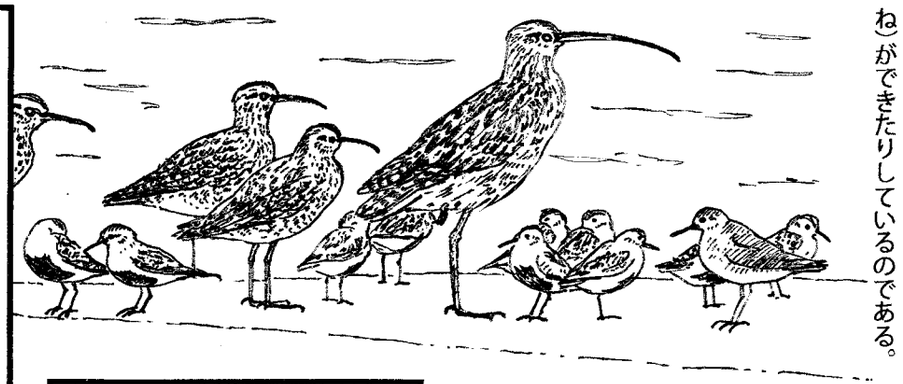
電話:0979-77-4396
(ひがたらぼ平日9:00-17:00)
FAX:0979-77-4396
info@mizubeniasobukai.org
http://mizubeniasobukai.org/

へんしゅうこうき

■この春はチュウシャクシギやハマシギたちが、らぼ前のテトラポッドの上で潮待ちをしてくれることが多いです。なにぶん超団体様なので、ポヒヒヒヒとかピュリリピュリリとかにぎやかなこと。そして群れで飛ぶ姿は圧巻です。お時間ある方、らぼに観にいらしてくださいね。でも、群れを見ることができるかできないかは運次第。そして、春限定ですよーん。(う)

シゼンホゴってなんだろうね。

▼「絶滅危惧種」とか「レッドデータブック」とか「生物多様性」とかって言葉はガタガタ読者の皆さんなら、まあなんとなくご存じだろう。え？知らない？というかたはぐぐってみてね。地球の長い長い歴史の中では、ある種が生まれて滅んでいくという現象は無数に起きていた出来事であるけれども、ワタシたち人間が便利な世の中を追求するあまり、他の生物や自然に与える影響が無視できないほど大きくなってしまっているわけであって、これらを防ぐためにどんな生物がどの程度危機なのかを調べたり、そういう生物や生物のすむ環境を地球上のみんなで守ったりしないといけませんよって取り決め（法律とか条例とかね）ができたりしているのである。

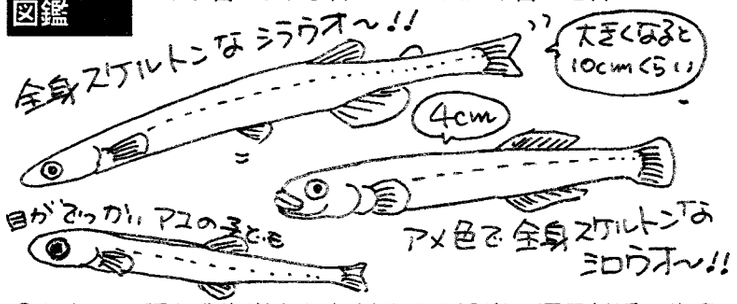


▼幸か不幸か？私たちが活動しているフィールドには、カブトガニとかアオギスとかベッコウトンボとか、まあ、そんな「近い将来絶滅しちゃうかも」な生きものがたくさんいるのである。これらの生きものがすんでいる干潟やため池も、国や県やいろんなところから「守るべき自然環境」ということで指定されちゃったりしているんだな。でもさあ、絶滅危惧に指定されたり、何とか候補地とか何とか百選とか、そういうのに名前がたくさんのっても、お題目だけで本当に生き物や環境を守るための何らかの措置が実行されないと意味がないじゃんねと感じるこの頃。それは誰がすべきことなんでしょう。お役所？エライ人？それとも一般ピープル？そこに住んでいる人？

▼そんなこと知ったこっちゃない、とか、いい迷惑だ、とか思う人がいるのも知ってるし、さみしいけれど仕方がないと思うこともあるけども、それでいいのかなあ。小さな生きものたちの住処を奪い続けてきたのは私たちなんだよねえ。それに、日本中でここにしかいないような生物がいるってすごいことだとも思うんだよね。そんなふうに感じてくれる人を増やしたいなあと水辺に遊ぶ会は日々活動を続けているわけなのだけど、ちょっとくたびれちゃったなあ。みんなに応援してもらいたいなあ、知恵貸してもらいたいなあと思うこの頃なのである。

よい子の里海里浜図鑑　シラウオ？シロウオ？

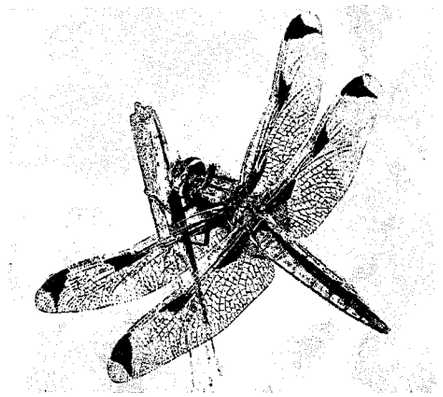
サケ目シラウオ科　　スズキ目ハゼ科



●どちらの種も北海道から九州までの沿岸や河口付近に生息、春になると産卵のため河口に集まってくる魚。名前が似ていることから、まちがえられやすい。生きているのをポン酢などと一緒に「躍り食い」するのはハゼの仲間のシロウオ。高級シラス干しやお吸い物の具、かき揚げなどにして食べられるのがシラウオなのだ。

●中津ではシラウオは時々山国川の河口で確認しているけれど、シロウオの方は水辺に遊ぶ会では未確認。この春、「シラウオとれたよー」ともらった透明な魚をひがたらぼの水槽で飼育していたところ、どうやらアユの稚魚だったという逸話もある！（ちなみにアユの稚魚君はまだ水槽に生息中）

池とトンボとワタシ



水辺に遊ぶ会がまだ活動を始めたばっかりの頃、トンボの研究をしているKさんと知り合いになりました。中津干潟とその周辺の湿地や水辺にどんな生きものがいるかを調査してリストにする活動を盛んに行っていた頃で、湿地にすむトンボを教えてもらいました。その時に、中津にはベッコウトンボというとても珍しいトンボがいる池があることを知りました。当時、中津にトンボを守る活動を行う団体がないので、関わってもらえないかとお願いされましたが、干潟の活動を始めたばかりの頃で、とてもトンボとため池の活動まで手を広げる余裕がなかった私たちでした。あの時、背丈よりも高いアシ原の中をどんどん歩きながら、背中に汗をかいてトンボを探すKさんの後ろ姿を今も時々思い出します。

あれから20年近くが経ち、紆余曲折ありましたが、トンボの池も中津の大切な水辺環境のひとつということでお手伝いをするようになって5年になります。今年もベッコウトンボが飛び交う季節になりました。中津干潟同様、トンボが飛ぶ自然環境を未来の子どもたちに残していくために、地域の方とも仲良くしながら微力ですができることをしていきたいなと思っています。

ホンの紹介

おもしろサイエンス　天然染料の科学

青木正明　著
日刊工業新聞社　発行

●染色作業をするのはとても楽しいです。思いもかけない色に染まることへの驚きもさることながら、出てきた色への思いが自分の中で広がっていくことも不思議です。「色」って何だろう？　ふと感じることがあります。「今年の流行色は？」とか「赤は情熱、紫は高貴、白は無垢など、色が連想させる感覚はどこからくるのか？」とか、「色」が私たちの心にもたらしているものはいったい何なのでしょう？

●この本では「色」は世界各地の歴史や文化と切り離すことができないものであることや、染色という現象がどうして起こるのかという化学の世界もわかりやすく書かれていて、サイエンス苦手でも素直に受け入れることができそうです。

●著者の青木さんは、アカニシからとれる貝紫がご縁で水辺に遊ぶ会がおつきあいをしている若手染織家さんです。知らない世界が開けて、これから楽しいことがありそうでワクワクしています。（も）

チョウセンイタチ

●町に近い大新田の海岸に、これだけの生きものたちがすんでいるということは、彼らのエサになる生きものや植物がたくさんあるということで、中津の自然の豊かさの証でもあります。

またまたキツネ

オオタカ（若鳥）